

## 地域における意見交換会の概要

地区社協や支部社協の会議、民生委員・児童委員の研修会等の中で30分程度の時間をいただき、意見交換を実施しました。

いただいた御意見については、中間見直しの参考とさせていただきます。

また、今後の施策推進における参考とするとともに、市町村とも情報共有します。

### 1 実施状況

日 時	参加者
平成30年12月13日（木）	山武市地区社協の会長14名 ほか市社協職員
平成31年1月16日（水）	袖ヶ浦市内の民生委員・児童委員約90名 ほか市社協職員、市職員
平成31年1月21日（月）	八街市内の民生委員・児童委員約90名 ほか市社協職員、市職員
平成31年1月25日（金）	習志野市社協支部の会長16名 ほか市社協職員
平成31年1月30日（水）	茂原市地区社協会長・助け合いサービス責任者 など約40名 ほか市社協職員

### 2 主な意見

#### ○ 地域福祉の推進について

- ・ 「公助」の役割は、「自助」や「互助（助け合い）」に対してどのくらいの公的なサポートや支援があるかで違ってくると思う。自助や互助への支援により、公助の制度を使わなくて済むような手立てがあれば、公助の必要性も下がってくるのではないか。その辺りの手立てがなかなか見えてこないように思う。
- ・ 今日のような場などを活用して、普段から啓発やPRを進めていくと、地域の力も上がるのではないか。そういった活動を地道にやっていくことだけでしか、地域力や互助の力といったものは上がっていかないように思う。
- ・ 地域福祉の推進にあたり、地域の実情を把握し、課題を共有することが重要であるが、統計データだけで地域の実情は見えないとは思えない。また、同じ市町村でも地域によって高齢化率の差は大きいということを意識して施策を考えてほしい。

## ○ 地域のつながりについて

- ・ 地域で隣同士のつながりを強くするよう、働きかけをしていく必要があると考えている。地域の助け合いがあって、その上に行政や社協の力を借りることで動いていける。ベースの部分が大事だと思っている。特に災害時は、地域の横のつながりが重要。
- ・ 人口が目に見えて減っていく中で「地域での支え合い」と言っても、難しい。非常に厳しいのが現実だということを、県にも理解してほしい。
- ・ 地域社会のつながりが壊れているのが一番問題だと思う。町内会に入っているのが50%くらいしかいない。個人情報の壁もあるので、町内会に入ってもらわないと情報が集められない。皆が町内会に入ってくれば情報も入りやすくなり、もっと関わられるのに、と思う。
- ・ ボランティアはパブリックな面もあるように思うが、個人に対してどこまで立ち入っていいものか、兼ね合いが難しい。プライベートとパブリックの境で悩んでいるので、何かガイドライン的なもの、具体的な例示を並べて提示したものなどがあると、活動しやすくなってありがたい。
- ・ 高齢化が進み、自治会への未加入者（あるいは高齢で自治会活動への参加が難しい方）が増えてくると、ごみ屋敷の問題や、周囲とコミュニケーションが取れなくて孤立してしまう方が増えてくるのではないかと。自治会の加入率は問題だと思う。高齢化率が高くなってくると、役所の中に「ごみ屋敷対策課」のような部署も必要になってくるのではないかと。ボランティアに頼るだけでは立ちいかなくなるように思う。
- ・ 自治会の加入促進は難しい話。古くからの人でも「辞めたい」と思っている人は多い。それをしないのは村八分が怖いから。外から見た時に、自治会の意義がはっきり分からないことが、大きな原因ではないか。
- ・ 福祉課題の解決を図る上では、住民同士の顔が分かる関係が重要だと思う。社協では、自治会や民生委員、長寿クラブなどの関係者も入って、いきいきサロンや交流会等の活動をしている。普段から人が集まって何かをするのが大事だと思う。日頃のつながりがないと、何かをやろうとしてもできない。高齢者に元気になってもらって、様々なサロンやコミュニティ活動に参加してもらいたいと思う。

## ○ まちづくりについて

- ・ これからの若い世代がどう夢のある生活をできるのか、見通しを持てるようにしていくことが必要。
- ・ 若い人が地元で生活し続けられるような環境整備が必要。都会から戻ってきた人が、保育園など子どもの預け先が少なくて困っていた例があった。都会に行っ

てしまった若い人に、「戻ってきても大丈夫だよ」と言えるような舵取りをお願いしたい。地元には仕事がない、というのが大きな問題。

- ・ 空き家で、庭の草木が伸び放題でどうしようもなくなっているところが何軒もある。敷地からはみ出してくると近所迷惑だし、そもそもできるのかの問題もあるが、仮に自分たちで切ったとしても処理にお金がかかる。県や市から何らかの支援があるとありがたい。

## ○ 相談対応・支援について

- ・ 複合的な課題のある世帯の相談に対応しているが、制度が使いにくい。以前よりも細かくなっていて、縛りがきつくなっているような印象を受ける。
- ・ 例えば、身寄りのない方を支援して入院させた際に、入院中の身の回りの世話についても病院側から「ボランティアで対応してほしい」と言われてしまい、困った事例がある。制度の狭間の問題と思われるが、地域・病院・福祉それぞれの声を聴いていただき、実効性のある支援について検討してほしい。
- ・ 一人暮らしの高齢者について、市から「入院をしたので、退院後に見守りを」との話をももらったが、「入院先や本人の状況などの具体的なことは、個人情報になるので教えられない」と言われた。何回か訪問してもずっと入院しており、その後進展はないが、もう少し情報を共有できればいいのにと感じた。
- ・ 独居の高齢の方に声をかけたところ、「民生委員の世話にはなりたくない」と断られてしまった。無理強いすることもできないので、近所の方にその方の様子を聞きながら、それとなく見守っている状況である。
- ・ 一人暮らしの方を回った時に、同じ敷地内に息子夫婦も住んでいるにもかかわらず、孤独を感じている方がいた。身内でもあまり当てにならないのだなという印象を持った。

## ○ 人材の確保・活用について

- ・ 75歳まで働ける時代になってきて、ますますボランティアや民生委員の成り手がいない。自治会の役員も同様で、自治会に何か手伝ってもらうのも難しい状況。
- ・ ボランティアに関するポイント制度を設けて、ポイントで介護保険料が安くなる、といったような取組はどうか。活動のモチベーションにもなるように思う。
- ・ 経済格差が子どもの学習格差につながっている。自分は元教員だが、子どもの学習支援や子ども食堂などに、退職した教員を活用するのも方法。
- ・ 国は今後5年で35万人の外国人人材の受け入れを掲げているが、千葉県はどのような取組をするのか。

### ○子育て支援の必要性について

- ・ 計画の中で、少子化に対する施策が少ない。将来の社会保障を考えた時に、少子化の解消が一番重要だと思う。
- ・ 出生率の低下は、子育ての負担が重いからではないか。3世代同居仕様の住宅を、補助を出して推進する、といった方向性があるといいように思う。
- ・ 今後は高齢者が増えて子供が少なくなる、という話は10年以上前から聞いているように思う。対策が足りないのではないか。

### ○移動手段について

- ・ サロンはつながりを作ったりする上で重要な場だが、サロンに行きたくても足がない人もいる。地域の推進員に送迎を頼っている状況がある。
- ・ バスが通らない地域では、車の免許を返納すると移動に困る。近所の人から自分の車で送迎するなど、公的なサービスではできない部分を、向こう三軒両隣の付き合いでカバーしているが、限界もある。
- ・ 地域での活動に社協のマイクロバスが活躍しているが、新車は購入できないので、古いものを修理して使っている。利用率は高い中、維持するのが精一杯である。こういった部分で協力いただける企業などと、県が間を取り持ってくれるとありがたい。
- ・ 各地区での活動が活発になって、色々な人が役割を持って参加できることが大事。家から出づらくなった方をどう連れ出すか、郡部の地域でいかにして簡単に迎えに行くことができるか、どうしたらいいのか考えている。